

## 振り付け・演出、湯浅より、公演直前コメント、その3 ミリタリーダンス

アーサー王の兵士たちが踊る、ミリタリー・ダンス、この曲は3拍子ですが、バロックダンスに数ある3拍子のどの舞曲にも当てはまりません。バロックダンスの3拍子は、舞曲ごとに特徴あるリズム系やメロディの雰囲気がありますが、そこから外れているのです。バロック音楽の多くが舞曲のタイトルの有る無しに関わらず、舞曲リズムで書かれているのは良く知られている事で、最も多くカウントする研究では楽曲の90%が舞曲リズムと示されています。では、この曲は・・・？

私はこの曲を聴いた瞬間、自然にルネサンスのステップをしていました。パヴァーヌのような行進の雰囲気を持ち、バッサダンツァのような柔らかさも捨てきれず、曲想はバロックダンスなら多くが2拍子で書かれるマーチに分類できるのではないかと。「分類など必要ない、表現したいものがある」と、パーセルの声が聞こえてきそうです。

私もそう思います。何も考えずに自然にステップがついて、この第1曲は超スピードで振り付けが完成しました。“パーセルの音楽が示唆する深さと広がりには振付家に同様の知識と情感を求め、それが音楽とダンスが一致する幸せなのだ”と書かれた研究があります。パーセルの音楽が、ここまで振付家を揺さぶり、求めるといふ事にどれだけ多くの方が気づくでしょうか。この事は振付家という者の幸福と言えるでしょう。

さて、私はこのダンスにはさらにひらめきがあり、剣のダンスとしました。イメージにはイギリス土俗のモリスダンスの剣舞があったのです。剣をぎらつかせエネルギッシュに、しかしスマートに踊りたい。兵士はカッコよくて素敵でなければ！ 小道具作りも一手に引き受ける多才なEさんをお願いして、大きな剣を作ってもらいました。一体この大ぶりの剣を扱いつつ踊れるのか・・・！？ さあ、揃ってきましたよ！ どこまでマニッシュに、兵士になりきれのでしょうか・・・乞うご期待！